


ここが聞きたい 回答
ANSWER質問
QUESTION

は 当町の高齢者福祉政策

高齢者の健康や生きが
い対策に努めます

〔町長〕

質問 当町の高齢化比率は毎年上昇しており、65歳以上の人口は、約4千200人（28・4％）後期高齢者は約2千人（13・9％）となっています。この長い高齢期をいかに不安なく生き生きと過ごすか、生産年齢人口に対する老齡従属

人口の割合が著しく高くなっている社会に對して、地域自治体の果たす役割はきわめて大きくなっています。そこでまず、どのよううに生き生きと年を重ねることができるか！町長の福祉政策を伺います。さらに3点の提案に對する考えを伺います。

①各種健康診断は保健センターに集約されています。しかし高齢者にとつて保健センターは遠隔地であり、出かけることは困難で、結果として受診率の低下につながります。再度分散検診を検討してください。

回答 健康増進対策として、元氣百梅体操などの健康教室やサロンの拡大、また老人クラブ活動の活性化など身近な場所での参加を推進します。

②高齢者の健康維持に關して軽スポーツ等も勤勞青少年ホーム（リニューアル後）、ふれあいセンターの活用はできないでしょうか。③後期高齢者の比率の

上昇とともに、運転免許証の返納者が増加しています。このような状況下で町の検診、あるいは町内医療機関での診療は、交通手段が限られます。そこで、後期高齢者世代2千人に對して年間5千円程度のタクシー金券、年間財政措置として1千万円の福祉援助を検討していただけではないでしょうか。

や経験を發揮できる場所づくりに努めます。認知症の人が増える将来を見据え、法務局や家庭裁判所が進める成年後見人制度の利用促進に努めます。3つの提案について①分散検診は、令和3年度中に方向付けをします。②勤勞青少年ホームは、改修工事を実施した後、高齢者の健康維持増進などで、地域の人に利用いただきたい。ふれあいセンターは、施設利用の申請があれば現在も利用できます。③高齢者の交通手段の確保は喫緊の課題です。コミュニティバスの利用状況を把握し、また他の市町村で実施されているタクシー助成の良いところも取り入れ、公共交通全体としてとらえ、令和3年度中に当町独自の支援策を決定します。

おおひら ふみ お
大平 文雄

②高齢者の健康維持に關して軽スポーツ等も勤勞青少年ホーム（リニューアル後）、ふれあいセンターの活用はできないでしょうか。③後期高齢者の比率の

生きがい対策として、社会福祉協議会の元氣サポーターによるワンコインサービスやシルバー人材センターの活性化を図り、高齢者、定年退職した人が知識



地域での再活用が望まれる休館中の勤勞青少年ホーム